



めざせ！ワンハート

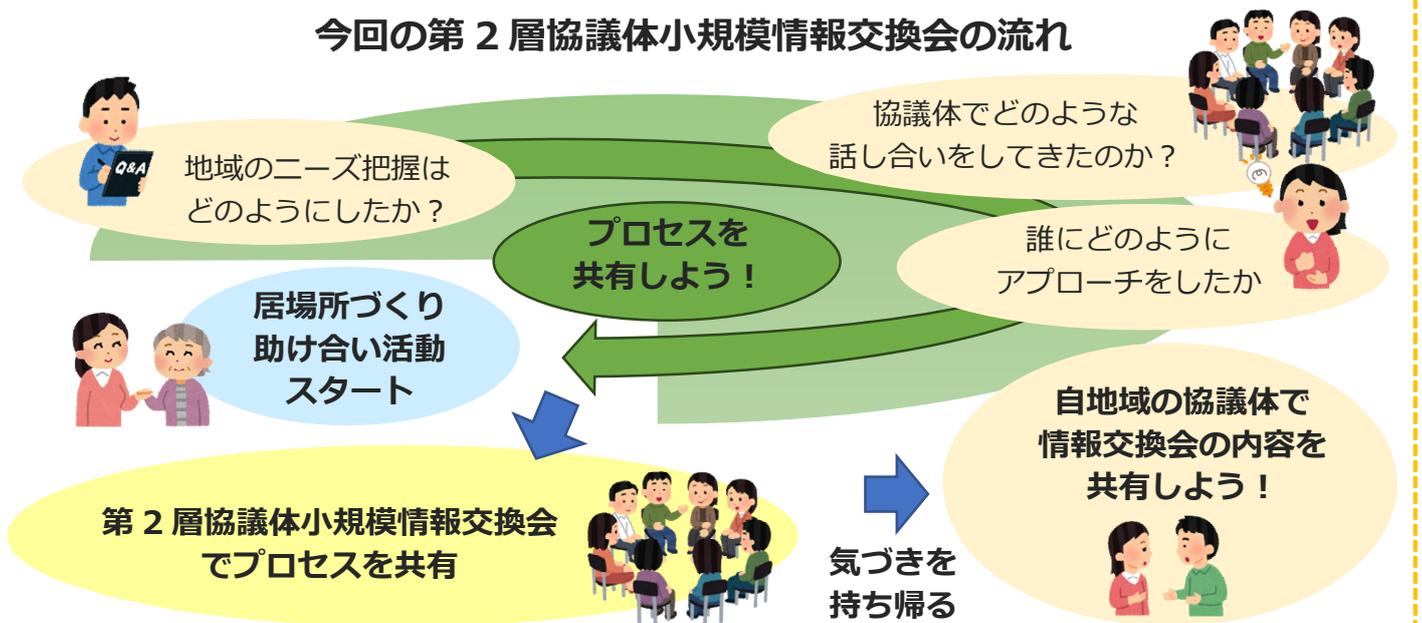
令和7年度 第2層協議体小規模情報交換会実施

令和8年2月16日・17日に第2層協議体小規模情報交換会を開催しました。各地区よりご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

今回の情報交換会では、数か所の第2層協議体メンバー間で活動状況に関する情報等を交換し、自地域に持ち帰ることで、今後の活動における参考事例や課題の共有及び今後の活動への意欲向上を図るとともに、住民メンバー同士がつながり、地域間の連携体制構築の契機とすることを目的に開催しました。**「お互いを知ってつながる」**をテーマに、**各地区の高齢者を支える社会資源の紹介をしながら、第2層協議体としてどのように情報交換しているか、不足している活動を創出しているか**という視点で意見を交わしました。

ぜひ、第2層協議体小規模情報交換会で得た情報を各地域に持ち帰り、各第2層協議体での情報共有を通じて次の一歩につなげていきましょう。

今回の第2層協議体小規模情報交換会の流れ



SCが他の地区の活動や協議体メンバー同士とつながります！



「他地域の活動をもっと聞いてみたい」「直接活動を見てみたい！」という方や、「住民主体の助け合い活動や見守り活動を立ち上げたい」、「実際に活動をしている人の話を聞いてみたい！」という方はぜひ、第1層生活支援コーディネーターにご連絡ください。他の地区の活動や協議体メンバーとつながります。今回の情報交換会を機に、高崎市全体で、第2層協議体活動を一緒に盛り上げていきましょう。

連絡先：027-321-1319（高崎市長寿社会課）



高崎市 HP「お互い様で支え合う地域づくり（生活支援体制整備事業）」
<https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2019011800019/>



発行元：高崎市第1層生活支援コーディネーター

第1回 小規模情報交換会の様子

【日時】令和8年2月16日(月) 10:00~12:00

【対象】中央・南・城南、北・東・西、佐野、城東・東部、塚沢・浜尻、新高尾・中川、六郷・北部 計7地区

【ポイントまとめ Aグループ】



- ・高齢者の困り事を2層協議体で収集したい。
- ・ニーズ調査から助け合い活動設立までの流れが確認できた。
- ・現在、困りごとの依頼が少なくても困った時に支えられる仕組みがあることが大切。
- ・区長や民生委員に働きかけていくことが大切。
- ・サポーター養成講座を開催して、地道に協力者を増やしていくことが大切。

【ポイントまとめ Bグループ】



- ・サロン以外にも地域に集える場が必要。
- ・見守りや移動手段を中心に話し合いを行った。
- ・協議体を知らない人も多いため、周知が必要。
- ・社会資源を調べ、お試して居場所を始めて、2年続いている事例を共有。
- ・居場所の回数を重ねていきながら活動が継続できるように協議体がサポートしていくとよい。

【ポイントまとめ Cグループ】



- ・協議体を知らない人が多い。担い手が不足している→地域支え合いサポーターの養成が必要。
- ・アンケートを実施して、居場所に来ていない人へ声かけをしていくとよい。
- ・区長や民生委員への勉強会を個別に開催し、地域の支援体制を強化することが大切。
- ・負担にならず、手軽にできる支え合いの仕組みづくりを行うことで、担い手が集まりやすくなる。

第2回 小規模情報交換会の様子

【日時】令和8年2月16日（月）13:30～15:30

【対象】八幡、豊岡、乗附、長野、榛名、群馬（なのはな）、群馬（さくら）、箕郷、倉淵 計9地区

【ポイントまとめ A グループ】



- ・協議体メンバーの減少が課題となってる→勉強会を開催し、メンバーの増員につながった。
- ・定期的な勉強会やサポーター養成講座を開催できるとよい。
- ・協議体メンバーの構成が各町内から1名以上いると協議体として地区状況が把握しやすい。
- ・住民主体の活動と第2層協議体がお互いに情報共有できるとよい。
- ・公共サービスだけではカバーしきれない隙間を助け合い活動等で埋められるとよい。

【ポイントまとめ B グループ】



- ・居場所が立ち上がるまでの過程を共有することができた。（八幡 町家カフェ仲よし等）
- ・主婦の方が数人集まったのがきっかけに始まった居場所がある→今では20人位の人が参加。
- ・サロンや長寿会の集まりでは頻度が少ないので、もっと集まりの場を増やしていきたい。
- ・気軽に足を運べる場所で、楽しく、継続してできる居場所を作れるとよい。
- ・立ち上げの際には、区長や民生委員、あんしんセンターとの連携が大切。

【ポイントまとめ C グループ】



- ・協議体メンバーの減少→チラシで周知。区長や民生委員などの横のつながりから友達を巻き込んで、サポーターになってもらう。
- ・ぐるりんタクシーを社会資源としてどのように活用できるか考えたい。
- ・高齢化率が違うので、地域でできることを考えていくことが大切。
- ・若い人にも協議体の周知を行い、協議体活動に巻き込んでいくことも大切。

第3回 小規模情報交換会の様子

【日 時】令和8年2月17日（火）10:00～12:00

【対 象】大類、滝川・京ヶ島、中居・矢中、岩鼻 計4地区



【ポイントまとめ A グループ】

- ・助け合い、居場所、見守り活動が生まれたプロセスを共有できた。
- ・アンケート等で困りごとを把握することが大切。
- ・助けあいワークブックの活用方法を共有。
- ・2層3層の役割の違いが共有でき、3層で生まれた困り事を2層で共有できるとよい。
- ・区長や民生委員も巻き込みながら、チラシを配布したり勉強会を開催したりすることが大切。

【ポイントまとめ B グループ】

- ・居場所や生活支援が生まれた経緯を確認。
- ・あんしんセンター主催の体操教室や空き家を活用した居場所で人が集まるようになった。
- ・困り事アンケートをもとに見守りを実施。→他エリアでも活動が広がっている。
- ・地域の高齢化率等の実情を知ることが重要。
- ・協議体の周知がまだ広く行われていないが、今後も周知をしていくことが大切。

第4回 小規模情報交換会の様子

【日 時】令和8年2月17日（火）13:30～15:30

【対 象】吉井、南八幡、寺尾・城山、片岡、新町、倉賀野 計6地区



【ポイントまとめ A グループ】

- ・お祭りアンケートの結果から居場所が必要。→居場所づくりに発展。
- ・関わりのない人とのつながりづくりが大切。
- ・区長や民生委員（現旧）との連携が大切。→勉強会を開催し、協力体制をつくる。
- ・既存の社会資源を活用し居場所に発展。
- ・アンケート結果から助けあい活動へ発展させていくことが大切。

【ポイントまとめ B グループ】

- ・居場所ができた経緯を共有できた。
- ・困ったときに気軽に話ができる場所が必要。
- ・勉強会やサポーター交流会の開催方法。→サポーターの活動内容と連携していくことが大切。
- ・住民主体の活動で出た課題を2層協議体へ情報共有していくことが大切。
- ・区長や民生委員に働きかけて勉強会を開催することが大切。